

令和6年度 学生募集要項

学校法人二戸学園
岩手保健医療大学大学院

Iwate University of Health and Medical Sciences Graduate School

看護学研究科 看護学専攻 修士課程

【目次】

1. 3つのポリシー	1
2. 看護学領域について	2
3. 授業科目一覧表	3
4. 授業科目の概要	4
5. 長期履修生制度について	10
6. 昼夜開講制について	10
7. 遠隔授業の実施について	10
8. 出願資格	10
9. 出願から合格までの流れ	11
10. 募集人員	11
11. 入学試験日程	11
12. 出願に関する事前相談について	12
13. 研究指導教員と研究内容について	13
14. 出願資格審査について（該当者のみ）	14
15. 出願手続	15
16. 入学者選抜方法	16
17. 試験当日の注意事項	17
18. 合格発表	17
19. 入学手続について	17
20. 学納金等について	18
21. 入学辞退手続について	18
22. その他	18

1. 3つのポリシー

本研究科は、「看護学を基盤に自ら考え、行動し、社会を切り拓く人材を養成する。」ことを目的としており、育成しようとする具体的人材像をディプロマ・ポリシー（学位授与方針）に定め、これを実現するための教育課程の編成方針をカリキュラム・ポリシーとして定めています。また、これらのポリシーに則った教育を受けるにふさわしい能力・適性を備えた人材を受入れるため、以下のようなアドミッション・ポリシーを定めています。

【アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）】

- 1) 専門性の高い看護学の修得を志向する人
- 2) 看護学専攻の教育を受けるための基礎的な知識や技術を有する人
- 3) 看護学の教育・研究者として、看護学や看護実践の発展に貢献する意欲を有する人
- 4) 看護学や看護実践に対する高い探究心を持ち、主体的に学修する意欲を有する人

【カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方針）】

- 1) 広い視野で看護を捉えるため、看護実践力、教育力、研究力に有機的につながるような理論・専門的知識を学ぶことのできる科目を配置する。
- 2) 看護に対する科学的探究心を培い、専門的知識、態度、論理的思考を統合し看護実践に応用することのできる能力を養える科目を配置する。
- 3) 臨床現場が抱える倫理的諸問題やこれまでの研究成果や課題、看護実践の質を分析、評価する意義と方法等を学ぶ科目を配置する。
- 4) 教育・管理・指導的な立場で看護職のリーダーとして活躍するとともに、保健・医療・福祉チームの一員として協働する際に必要な知識やスキルを身に付ける科目を配置する。
- 5) 社会の多様な状況に応じた看護を提供するため、知識と研究を有機的に結び付けた管理能力を身に付けるための科目を配置する。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）】

- 1) 広い視野と深い人間理解に基づく臨床実践能力と看護学の教育能力を有している。
- 2) 健康に対する社会的ニーズを認識し、課題解決のために科学的探究心に根差した研究能力を有している。
- 3) 社会の多様な状況に応じた看護を提供するために、高い倫理観に基づいた看護実践能力を有している。
- 4) 保健・医療・福祉チームの一員として、多職種集団と連携できる能力を有している。
- 5) 保健・医療・福祉の分野の種々の課題に対し、判断力、調整力、改革力を伴う優れた看護の管理能力を有している。

2. 看護学領域について

本研究科看護学専攻（修士課程）は、3つの看護領域「基礎・地域連携看護学領域」「臨床・応用看護学領域」「看護管理学領域」で構成しています。

領 域	概 要
基礎・地域連携看護学領域 …基礎看護学 …地域看護学 …在宅看護学	<p>さまざまなライフサイクルや健康段階にある人々への看護実践の基盤となる看護援助を探究する。看護実践の理論的背景、根拠に基づく看護援助技術の実証的研究を行う。地域で生活する人々とその家族、療養中の看護の対象者など、さまざまな状況の看護について探究する。さらに、看護の場を限定せず、地域包括ケアシステムにおける看護課題を研究する。</p>
臨床・応用看護学領域 …老年看護学 …母性看護学 …小児看護学 …精神看護学	<p>看護援助における科学的根拠に基づいた臨床研究を行う。老年・母性・小児・精神看護学の各々の臨床領域における効果的な看護援助の要因分析、援助方法の開発・実施・評価に関する研究を行う。また、地域で生活する人々とその家族、入院や治療中の看護の対象者など、さまざまな状況にある人々の看護について研究し、対象者及びその家族の看護についての調査を進める。さらに、看護の場を限定せず広く看護学的観点から健康問題を明らかにし、保健・医療・福祉との連携を図りながら、保健・医療・福祉施設のみならず学校・地域・コミュニティにおける看護課題を研究する。</p>
看護管理学領域 …看護管理学	<p>看護管理に関する科学的根拠に基づいた看護研究を行う。看護管理者に必要とされる組織運営、組織調整、組織構築、経営、看護行政・政策に関する研究や看護学的観点からの看護組織の構築と運営、施設の経営参画についての課題を明らかにし、看護組織が果たす役割について研究する。</p> <p>また、各々の臨床領域における効果的な看護援助の要因分析、援助方法の開発・実施・評価に関する研究を行うとともに、地域で生活する人々とその家族、入院や治療中の看護の対象者など、さまざまな状況にある人々の看護について、看護学的観点から対象者及びその家族の健康問題を明らかにし、保健・医療・福祉との連携を図りながら調整・管理する上で必要な要件についても研究する。</p>

～詳細は「3. 授業科目一覧表」「4. 授業科目の概要」を参照してください～

3. 授業科目一覧表

科目区分	授業科目の名称	配当 年次	単位数		授業形態			必要単位数	
			必修	選択	講義	演習	実験・実習		
共通科目	看護理論特論	1 前		2	○			必修 8 単位 選択 6 単位以上 合計 14 単位以上	
	看護研究方法特論 I	1 前	1		○				
	看護研究方法特論 II	1 後	1		○				
	臨床倫理特論	1 後	2		○				
	多職種連携特論	1 後	2		○				
	統計学特論	1 前		2	○				
	質的研究方法特論	1 前		2	○				
	医療社会学特論	1 後		2	○				
	フィジカルアセスメント特論	1 前		2	○				
	コンサルテーション特論	1 後		2	○				
	災害看護特論	1 後		2	○				
	看護学教育特論	1 前	2		○				
専門科目	基礎・地域連携 看護学領域	基礎看護学特論 I	1 前		2	○		選択 8 単位以上	
		基礎看護学特論 II	1 後		2	○			
		基礎看護学演習 I	1 前		2		○		
		基礎看護学演習 II	1 後		2		○		
		地域看護学特論 I	1 前		2	○			
		地域看護学特論 II	1 後		2	○			
		地域看護学演習 I	1 前		2		○		
		地域看護学演習 II	1 後		2		○		
		在宅看護学特論 I	1 前		2	○			
		在宅看護学特論 II	1 後		2	○			
		在宅看護学演習 I	1 前		2		○		
		在宅看護学演習 II	1 後		2		○		
	臨床・応用看護学領域	老年看護学特論 I	1 前		2	○			専門科目は各自の専門研究領域の科目「特論（I～III）」及び「演習（I・II）」を含む8単位を修得すること
		老年看護学特論 II	1 後		2	○			
		老年看護学演習 I	1 前		2		○		
		老年看護学演習 II	1 後		2		○		
		母性看護学特論 I	1 前		2	○			
		母性看護学特論 II	1 後		2	○			
		母性看護学演習 I	1 前		2		○		
		母性看護学演習 II	1 後		2		○		
		小児看護学特論 I	1 前		2	○			
		小児看護学特論 II	1 後		2	○			
		小児看護学演習 I	1 前		2		○		
		小児看護学演習 II	1 後		2		○		
		精神看護学特論 I	1 前		2	○			
		精神看護学特論 II	1 後		2	○			
		精神看護学演習 I	1 前		2		○		
		精神看護学演習 II	1 後		2		○		
	看護管理学領域	看護管理学特論 I	1 前		2	○			
		看護管理学特論 II	1 前		2	○			
		看護管理学特論 III	1 前		2	○			
		看護管理学演習	1 後		2		○		
研究科目	看護学特別研究	2 通	8		○		必修 8 単位		
合計（45 科目）		—	16	78	—		30 単位以上		

4. 授業科目の概要

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当予定教員
共通科目	看護理論特論	看護実践で行われている看護援助方法の主要な理論的背景について学ぶ。看護実践の基盤となる看護論としてナイチンゲール看護論、ヘンダーソン看護論、ベナー看護論、オレム看護論、ウィーデンバック看護論について理解と考察を深め、看護実践を充実し発展させる方法を学修する。また、各自の看護体験と看護理論との関係について考察し、看護理論や中範囲理論を活用して看護実践を展開する方法を探究する。	岡田実 濱中喜代
	看護研究方法特論Ⅰ	看護学における科学的な研究のプロセス（看護における研究の役割、科学的アプローチ、理論やモデルに基づく研究疑問の立て方など）を理解し、研究用語、研究デザインおよび研究方法についての理解を深める。研究のプロセスに沿って研究課題、研究背景、研究疑問、文献検索、文献検討、概念枠組み等を理解しながら、研究計画の立案に着手するまでの基礎的能力を養う。	岡田実 江守陽子
	看護研究方法特論Ⅱ	研究題名、研究背景、研究目的と意義、研究方法、データの収集方法及び分析方法、質問紙やインタビューガイドの作成、研究協力依頼文作成までの研究の一連の流れに沿って、研究倫理審査に申請する研究計画書作成要領に基づいて、研究計画書を完成させる。立案した研究計画書を発表し、アドバイスの基づいて修正し、完成度の高い研究計画書を作成する能力を養う。	研究指導教員
	臨床倫理特論	臨床現場で看護師をはじめとして医療従事者が患者本人や家族と向き合い・寄り添いながら医療・ケアを進める中で生じる問題に、多職種が協働して対応する際の要となる「どうしたらよいか」を考える営みを臨床倫理という。本講では看護における倫理的な概念の振り返りを行う。履修者が臨床で遭遇した事例を出し合い、看護学領域・人文社会系領域の教員がスーパーバイズする事例検討を行う。モデル事例を用いて倫理的課題の検討方法について理論的・実践的な理解を深める。多職種の中で臨床倫理を進める能力を修得する。さらに事例検討から得られた臨床倫理能力を発展させる方法についても学修する。	清水哲郎 濱中喜代 石井真紀子
	多職種連携特論	多職種連携は、地域包括ケアを推進する上で、またケアの実践上のテーマとして、さらには政策においても注目されている。臨床や在宅など多様なケアの現場において、患者と家族のQOLを維持、向上させるためには多種多様な専門職の連携が求められる。そこで本講義では、多職種連携を理論的に考察する視点を学び、多職種連携に関する我が国の現状と課題の理解を進めていく。また、多職種連携の実際について事例検討によって理解を深める。	大沼由香
	統計学特論	保健医療の場や看護研究において必要となる推測統計の基礎を身につける。具体的には、調査手法の種類、推定と検定の考え方などを学修し、データの性質に応じた統計手法の選択・分析する能力の修得を目標とする。講義形式ではあるが、調査法選択・分析を体験しながら、調査手法と統計知識の定着を図る。	大井慈郎
	質的研究方法特論	広く質的研究法とされるさまざまな方法について、専門的な解説・紹介を行う。人間と社会をめぐる事象における個別具体的な側面に着目し、そこにアプローチしようとする方法はさまざまある。本授業は、インタビューとフィールドワークに関する研究を中心に、それぞれの研究の手法について、その思想的背景などもふまえながら解説を行う。	大井慈郎 岡田実

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当予定教員
共通科目	医療社会学特論	医療社会学の基礎について学修する。医療社会学の基礎を築いたのが、T. パーソンズである。パーソンズは 20 世紀における社会学の巨人であるが、彼は医療社会学の先駆者でもあった。彼が提示した議論は、後にはさまざまな研究者から批判を受けるところもあるが、肯定的にであれ、否定的にであれ、避けては通れない存在である。そこでパーソンズの議論（さらにはそれに対する批判）を学ぶことを通じて、医療社会学の基礎に関する理解を深める。	上田耕介
	フィジカルアセスメント特論	健康問題をもった対象者の身体状況をアセスメントし、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術を修得する。フィジカルアセスメントの目的・方法・必要性についての理解を基盤として、フィジカルアセスメントを活用した適切な情報を収集・分析し包括的なアセスメントから特定の問題を明確化できるコミュニケーション技術を身につけ、臨床判断を行う基礎的能力を養う。	
	コンサルテーション特論	多様な臨床で展開されている高度実践看護師などによるコンサルテーションの活動から、コンサルタントに必要な専門的な役割とその能力を学修し、看護実践家として自身の所属する臨床現場において適応可能なコンサルタント的な役割を検討する。関連して、組織全体を見通すことによって学習し変革を遂げる組織であるための問題と課題を検討し、組織における自身の役割を検討する。	岡田実
	災害看護特論	東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県をフィールドに、各国で多発する自然災害及び人為的災害（放射線等）に対して、災害時の復旧・復興期に対応する高度な専門知識、技術の理解を深め、その状況にふさわしい倫理観を身に付ける。 また、国内外の災害現場における専門職者の講義を取り入れ、多様な災害現場における看護職の活動と災害に対する予防・減災・復旧・復興に対する看護活動について探究する。	鈴木るり子
	看護学教育特論	看護職における看護基礎教育と継続教育の現状と課題について理解を深め、看護職への教育のあり方について探求する。具体的には、日本の看護教育制度の特徴、看護教育カリキュラムの変遷、と課題、生涯教育の観点から、成人学習に関する教育方法の基礎的理論を学ぶとともに、看護基礎教育および看護継続教育における教育プログラムの作成・教育内容・教材開発・教育評価の方法や留意点について学修する。 さらに、保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の基本的な方向性、わが国の医療政策と看護教育課程に及ぼす影響、これからの看護の機能と教育のあり方などについても考察する。	江守陽子 濱中喜代 土田幸子 石井真紀子

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当予定教員	
専門科目	基礎・地域連携看護学領域	基礎看護学特論Ⅰ	看護活動の場で実践されている看護援助の理論的背景について、主に中範囲理論としてペプロウ看護論、トラベルビー看護論、ストレス・コーピング理論、危機理論、ボディイメージ・自己概念に関する理論、喪失・悲嘆に関する理論やリフレクションに関する理論を学び、看護実践への活用について学修する。自己の看護実践を理論と統合し、理論を活用して看護実践を展開する能力を養う。	
		基礎看護学特論Ⅱ	看護活動の場で実践されている看護援助技術について快適な環境をつくる技術、活動・運動を支援する技術、身体を清潔に保つための技術、食事・栄養摂取に関する技術、薬物療法に関する技術、健康学習を支援する技術や関心のある看護援助技術について文献検討及び根拠となる理論から分析・考察する。さらに根拠に基づく看護援助技術を提供するための方法を探究する。	
		基礎看護学演習Ⅰ	文献検索に必要な知識と技術と共に文献のクリティークを行う能力を養う。看護の対象者へ提供されている看護実践で行われている看護援助及び「看護理論特論」、「基礎看護学特論Ⅰ」、「基礎看護学特論Ⅱ」で学修する内容と関連する文献について量的研究、質的研究それぞれについてクリティークを行い研究成果と課題を考察する。	
		基礎看護学演習Ⅱ	基礎看護学演習Ⅰで得られた研究成果と課題の分析から、自己の関心のある看護援助について文献のクリティークを行い研究成果や課題を考察し、自己の研究課題を明確化する。「看護研究方法特論」の学修を活用し、文献検討から研究課題を解くための研究方法を検討する。研究課題に即した研究デザインを検討し、研究計画書の作成を行う。	
		地域看護学特論Ⅰ	地域社会で生活を営んでいる様々な対象者に、社会疫学の視点で看護者として必要な知識・技術・倫理観について考察する。また、国内外の生活者への法的・制度設計の実際について分析し、我が国における新たな地域生活者に必要な保健・福祉・医療制度等について探求する。	鈴木るり子
		地域看護学特論Ⅱ	地域や集団を単位とした地域ケアシステム構築に係る既存の概念・理論について理解を深める。また、地域アセスメントを基に地域住民の個別の健康・生活課題を地域全体の健康・生活課題へと発展させ、社会資源の活用と開発、施策化について考察する。これらを通して地域ケアシステムについて探求する。	鈴木るり子
		地域看護学演習Ⅰ	地域社会で生活を営んでいる様々な対象者がもつ健康問題や環境に対してアセスメントする能力を養う。また、生活者の強みを引き出すケアマネジメント能力と看護上生じる倫理的問題について検討・考察する能力を養う。これらの過程を通して研究課題の明確化を図る。	鈴木るり子
		地域看護学演習Ⅱ	自己の研究課題に焦点をあて、その研究の課題を解明するための理論的枠組みについて方法論の正当性や実現可能性について検討する。課題に即した研究デザイン、研究計画を採用する過程を通して自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。	鈴木るり子
		在宅看護学特論Ⅰ	在宅看護に関連する保健医療福祉制度や社会資源について整理し考察する。さらに、小児から高齢者までの在宅における看護実践のためのケアマネジメントについて、一連の過程を理解し、関連する理論や方法を学修する。	大沼由香
在宅看護学特論Ⅱ	在宅における療養者や家族の心理的、身体的健康課題及び訪問看護ステーションや入退院支援に関する看護師の役割と課題、在宅看取りと意思決定支援について、文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。 さらに、地域包括ケアシステムにおける看護師の役割や、多職種連携の実際について学修を進める。	大沼由香		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当予定教員	
専 門 科 目	基礎・地域連携看護学領域	在宅看護学演習Ⅰ	在宅における小児から高齢者を対象とした看護および家族支援について、国内外の文献や事例を分析することにより、地域で暮らす人々に対する看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、在宅看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。	大沼由香
		在宅看護学演習Ⅱ	在宅療養者や家族の支援について広義に理解し、根拠に基づいた支援を提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容および看護実践等の分析や、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。	大沼由香
	臨床・応用看護学領域	老年看護学特論Ⅰ	高齢期にある人々の健康維持・増進、疾病予防について全人的に課題を把握し分析する。その為に高齢者ケアに応用可能な理論の理解を深め、実践における応用可能性を探求する。さらに、生活習慣病やストレス等に関連する健康問題に着目し、終末期を含めたQOLの維持向上を目指した看護介入方法とその評価方法を探求する。	
		老年看護学特論Ⅱ	認知症の病態生理、症状の特徴、診断及び治療方法を最新の知見に基づき理解する。その上で、認知症による身体的・心理的・社会経済的影響をアセスメントし、認知症者及びその家族の健康課題や倫理的課題について分析し考察する。さらに、Dementia ケア理論について理解し、認知症者の生活や活動の在り方及び療養環境の整備などから生活の質の向上を目指した看護方法の開発を探求する。	
		老年看護学演習Ⅰ	各自が興味を持っているテーマについて文献検討を行い、関心領域の研究の課題を明らかにする。さらに、最新の研究知見から研究方法について理解を深める。それらを統合して研究計画書を作成する能力を養う。	
		老年看護学演習Ⅱ	認知症に関する（または、各自が興味を持っている）テーマに基づき、医療機関または高齢者施設などで演習を行い、パイロットスタディを実施する。収集したデータ分析の演習を通して、対象としている現象の理解を深め、研究計画書及び研究倫理申請書を作成する能力を養う。	
		母性看護学特論Ⅰ	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する女性の心理的、身体的、社会的な特徴について、国内外の文献や事例を基に、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる女性と家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。	江守陽子
		母性看護学特論Ⅱ	家族や社会における母子の心理的、身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護職の活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。 さらに、家族、社会集団及び国家における母子保健の位置付け、取り組み、保健活動及び我が国の母子保健法等の法律に裏付けられた国、都道府県、市町村レベルの支援や保健サービスの特徴について学修を進める。また、母子保健活動の変遷、地域（国外も含む）による差異について考察する。	江守陽子
		母性看護学演習Ⅰ	思春期から成熟期、更年期、老年期へと変化する健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、国内外の文献や事例を分析することにより、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、母性看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。	江守陽子 大谷良子 佐藤恵

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当予定教員
臨床・応用看護学領域 専門科目	母性看護学演習Ⅱ	周産期及び女性の生涯を通じて、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容及び看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。	江守陽子 大谷良子 佐藤恵
	小児看護学特論Ⅰ	乳児期から思春期までの発達理論に基づいた対象の理解のうえで、心理的、身体的、社会的な特徴とその支援方法について、国内外の文献や事例を基に、整理し考察する。さらに、現代社会に生きる小児とその家族の健康課題、疾病の予防、ライフステージ各段階のヘルスケアについて、それらを解決・評価する方法や理論を学修する。	濱中喜代 下野純平
	小児看護学特論Ⅱ	小児や家族を取り巻く社会環境・状況を踏まえ、心理的・身体的健康課題や疾病の予防、健康の保持・増進のための看護活動について文献や事例を通して分析し、アセスメントするための能力を養う。また、小児と家族とのコミュニケーションスキルおよび多(他)職種連携と協働について学修を進める。さらにヘルスプロモーションに向けての健康教育について考察する。	濱中喜代 下野純平
	小児看護学演習Ⅰ	新生児期から思春期までの健康リスクの高い小児あるいは健康問題を抱えた小児について、国内外の文献や事例分析及びフィールドワークを通して、より高度な看護活動の方策について考察を深める。また、科学的思考を実践に生かすために、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について学修する。それによって、小児看護学領域の看護実践研究の基礎的能力を養う。	濱中喜代 下野純平
	小児看護学演習Ⅱ	小児とその家族への援助として、実践科学としての科学的根拠に基づいたケアを提供する方法を学修する。さらに、関連領域の最新の研究内容及び看護実践等の分析、批判的評価を通して、自らの研究テーマを導き出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討することによって、自らが取り組むべき研究遂行能力を養う。	濱中喜代 下野純平
	精神看護学特論Ⅰ	精神看護学の成り立ちと発展を理解するために、精神疾患と精神医療の歴史を世界的な動きを背景に日本が辿った歴史の変遷を学修しながら、精神障害者にも対応した地域包括ケアシステムの構築という現在の精神医療政策に至るプロセスを学修する。	岡田実
	精神看護学特論Ⅱ	精神疾患に対する多職種アプローチを可能にする各種の介入モデル(生物学的モデル・精神力動モデル・認知行動モデル・社会モデル)を学修する。関連して、精神医療保健福祉の領域において、各種の事例が地域への移行と定着を遂げることに効果のある多職種協働によるチームアプローチを可能にする理論と実践を学修する。	岡田実
	精神看護学演習Ⅰ	ACT や精神科に特化した訪問看護活動などのアウトリーチ方式による先進的な看護実践及び臨床現場が抱える倫理的諸問題を学修しながら、地域包括ケアに基づく地域移行を円滑に実施する方策を検討する。関連して、精神科救急・急性期治療と看護の現況を明らかにしながら、急性期像を複雑にしている自閉症スペクトラムを抱える対象への支援策を個・家族・地域社会の広がりに沿って検討する。	岡田実
	精神看護学演習Ⅱ	事例研究や症例研究をまとめ記述する方法を学修し、その方法に基づいて各自が抱えている事例をレポートし、各事例が抱える問題の解決策を互いに検討しながら、より効果的な介入策を実施する具体策を組み立てる。関連して、精神医療における専門多職種による事例研究や症例研究に学びながら、チームアプローチの在り方を学修する。	岡田実 川添郁夫

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	担当予定教員	
専門科目	看護管理学領域	看護管理学特論Ⅰ	認定看護管理者教育課程ファーストレベルで求められる看護管理者に必要とされる、基本的な知識・技術・態度と看護の組織運営について、病棟・外来等の「部署管理」の観点を中心に学びつつ、看護の利用者と直接に関わる看護師長職・師長補佐職の管理対応を確認しつつ、さらに所属看護師等の相談への応需についても学修する。加えて、フローレンス・ナイチンゲールの著作の中から「看護管理」に該当する部分等を資料として、看護管理の歴史的展開についても学修する。	伊藤收
		看護管理学特論Ⅱ	認定看護管理者教育課程セカンドレベルで求められる看護管理者に必要とされる、部署を越えた業務（各種委員会活動・実習校との調整など）における組織調整を中心に学修する。そして、実際の看護次長職・教育師長職が行っている部署を越えた組織調整を確認しつつ、その意思疎通・意見集約に必要な知識・技術・態度を広範に学修する。	伊藤收
		看護管理学特論Ⅲ	認定看護管理者教育課程サードレベルで求められる看護管理者に必要とされる、自施設が地域社会から求められているヘルスケアサービスを正しく理解し、それを看護部の理念や年度計画に反映させる過程を学修する。そして、その理念や年度計画を具現化するための看護組織の構築と運営についてと施設の経営参画についても学修する。加えて、所属施設がある都道府県の保健福祉看護政策の中から履修生が重要と考える政策について、厚生労働省等から出されている通知類と対照させながら、その施策動向の理解を進めると同時に、看護部として果たせる役割等についても学修する。	伊藤收
		看護管理学演習	看護管理特論（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）の学修の中から、履修生の実際に即したレベルでの看護管理課題を見出し、その改善計画の立案を、下記①～⑥に基づいて行う。①資料・文献類のクリティーク、②組織分析と計画策定の妥当性、③動機や目的の根拠となるものの客観性、④方法と期待される成果の現実性、⑤改善計画案の文章としての完成度と目的との整合性、⑥パワーポイント等を用いた理解しやすいプレゼンテーションの実施。	伊藤收 土田幸子
研究科目	看護学特別研究	<p>研究倫理審査を受審し承認が得られるまで、研究計画書の完成度を高める作業を継続する。研究計画書が承認された後に、倫理的配慮に基づいて、以下の研究プロセスに沿って修士論文の作成を指導する。</p> <p>①研究計画に基づきデータを収集する。 ②収集されたデータを結果にまとめる。 ③得られた結果に考察を加え、看護実践への提言と研究の限界をまとめる。 ④研究の結論をまとめる。 ⑤修士論文の要旨を作成する。</p> <p>論文の作成要領にしたがって修士論文の仕上げを支援する。修士論文をもとにプレゼンテーションを行い、他者からの評価を得る。</p>	岡田実 濱中喜代 清水哲郎 江守陽子 鈴木るり子 土田幸子 大沼由香 吹田夕起子 伊藤收 三浦靖彦 石井真紀子 下野純平 大谷良子 大井慈郎 佐藤恵	

5. 長期履修生制度について

職業を有する等の事情により長期履修生制度を利用する学生は、修業年限を3年とすることができます。また、長期履修生制度を活用した学生は、2年間分の授業料等を3年間で納付できることとしています。長期履修生制度を申請できる者は下記のとおりです。

- 1) 職業を有している者
- 2) 介護や育児等に従事している者
- 3) その他やむを得ない事情のある者

申請の際には理由が確認できる書面を添付すること。有職者に係る在職証明書の書式は、本学HPからダウンロードできます。添付する書面が不明な場合は、大学院担当に問い合わせてください。

6. 昼夜開講制について

職業を有する等のため、昼間だけでは学修が困難と予想される学生のために、大学院設置基準第14条の規定を適用して、弾力的な履修を可能にしています。

平日のVI時限（18：00～19：30）と土曜日Ⅰ～Ⅳ時限（8：50～16：10）にも授業を行い、働きながら学修が進められるよう配慮しています。

7. 遠隔授業の実施について

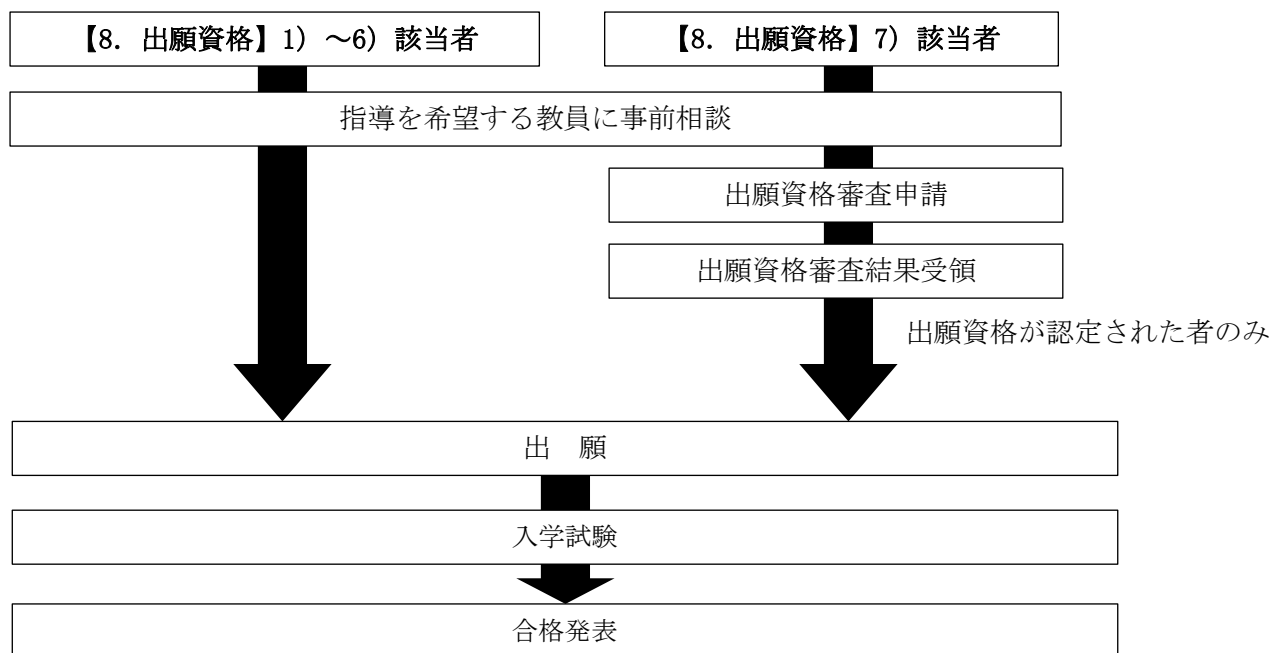
遠隔地においても学修が可能となるよう、授業の一部を双方向対面が可能なZoom形式等のインターネット通信を活用し、自宅や職場での受講を可能にしています。なお、インターネットを活用した遠隔授業は、担当教員と受講学生の双方が事前に調整した上で実施します。

8. 出願資格

本研究科の出願資格は、次のいずれかに該当する者で、原則として看護師免許を取得した者（2024年3月31日までに取得見込みの者を含む。）となっています。

- 1) 大学を卒業した者
- 2) 大学改革支援・学位授与機構により学士の学位を授与された者
- 3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者
- 4) 日本において、文部科学大臣が指定した外国大学日本校の16年の課程を修了した者
- 5) 外国の大学等において、修業年限が3年以上である課程を修了することにより、学士の学位に相当する学位を授与された者
- 6) 文部科学大臣の指定した者
- 7) 文部科学大臣が指定した専修学校の専門課程を修了した者で本大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等あるいはそれ以上の学力があると認められた者で、24歳に達した者

9. 出願から合格までの流れ



10. 募集人員

日程	研究科	専攻	修業年限	募集人員
第一次募集	看護学研究科	看護学専攻	2年	一般選抜入学試験 社会人特別選抜試験 3名
第二次募集				

※第二次募集については、第一次募集の出願状況により決定します

11. 入学試験日程

	第一次募集	第二次募集 (第一次募集の出願状況により決定)
試験区分	一般選抜入学試験・社会人特別選抜試験	
事前相談期間	令和5年9月11日(月)～ 令和5年10月16日(月)	令和5年12月18日(月)～ 令和6年1月12日(金)
出願資格審査 申請期間	令和5年10月23日(月)～ 令和5年11月10日(金)必着	令和6年1月15日(月)～ 令和6年1月26日(金)必着
出願期間	令和5年11月20日(月)～ 令和5年12月1日(金)必着	令和6年2月5日(月)～ 令和6年2月9日(金)必着
試験日	令和5年12月9日(土)	令和6年2月17日(土)
試験会場	本学	
合格発表	令和5年12月15日(金)13時	令和6年2月26日(月)13時
入学手続き及び 入学金等納入期間	令和5年12月18日(月)～ 令和5年12月26日(火)必着	令和6年2月28日(水)～ 令和6年3月5日(火)必着

※出願資格審査申請は該当者のみ、14頁参照

12. 出願に関する事前相談について

出願予定者は、必ず出願前に志望する看護領域の研究指導教員の面談を受けることが必要となります。

1) 目的

事前相談は、応募者が希望する研究指導教員を選定し、入学後の研究内容について事前に指導・助言を得られるようにすることを目的としています。希望する研究指導教員から指導を受けられるかどうか、希望する研究内容が妥当かどうか、どのように研究計画を立てれば良いか、入試や入学までにどのような準備をすれば良いか等の情報を得る機会となります。

希望する研究内容について、より適切な研究指導教員がいる場合は紹介してもらうこともできます。

2) 実施の流れ

- (1) 希望する研究指導教員にEメール（13頁参照）で連絡を取り、事前相談の予約を取る。
- (2) 本学所定の事前相談票を作成し、希望する研究指導教員と面接による事前相談を実施する。
- (3) 出願に必要な下記「4) 事前相談に必要な書類」を用意し、希望する研究指導教員と随時面談を行う。
- (4) 複数の教員に事前相談をしても構いませんが、その旨を各教員に知らせること。
- (5) 長期履修を希望する場合は、事前相談時に長期履修の申請理由、履修計画等について必ず相談すること。

3) 実施期間

一次募集 令和5年9月11日（月）～令和5年10月16日（月）

二次募集 令和5年12月18日（月）～令和6年1月12日（金）

4) 事前相談に必要な書類

- (1) 事前相談票
- (2) 入学志願書
- (3) 研究計画書
- (4) 長期履修申請書（希望者のみ）
- (5) 出願資格認定審査申請書（8. 出願資格 7) 該当者のみ）
- (6) その他、希望する研究指導教員が指定する書類

各種書類は本学HPよりダウンロード可能です。希望する研究指導教員と面談を行った上で、出願に必要な書類を作成してください。

5) その他・注意事項

- (1) 「(3) 研究計画書」「(4) 長期履修申請書」は希望する研究指導教員から**必ず署名・捺印をもらってください**。署名・捺印のない書類は、出願手続で受付けることはできません。
- (2) 選抜区分「一般選抜・社会人特別選抜」については、希望する研究指導教員もしくは大学院担当に確認してください。

13. 研究指導教員と研究内容について

1) 研究指導教員（領域所属）

領域	分野	職位	氏名	研究指導内容	連絡先
基礎・地域連携看護学領域	基礎	—	—	—	※
	地域	教授	鈴木 るり子	東日本大震災被災地をフィールドに、発災直後から復旧・復興のプロセスを検証し、看護活動に必要なとされる災害対策（防災・減災・復旧・復興）の理論と実践について研究指導を行う。	rsuzuki@iwate-uhms.ac.jp
	在宅	教授	大沼 由香	暮らしの場に関わる立場にある看護職を対象に、地域包括ケアや地域共生社会のケアシステム、多職種連携方法、介護予防の地域展開について研究指導を行う。	yu-ohnuma@iwate-uhms.ac.jp
臨床・応用看護学領域	老年	—	—	—	※
	母性	教授	江守 陽子	周産期のみならず思春期から成熟期、更年期へと変化する時期における健康リスクの高い女性あるいは健康問題を内在する女性とその家族を対象に、科学的根拠に基づいたケアの開発、看護実践やケアを提供するシステムの在り方について研究指導を行う。	emori@iwate-uhms.ac.jp
	小児	教授	濱中 喜代 (学長兼学部長)	新生児期から思春期に至るまでの難病及び慢性疾患をもつ小児とその家族の看護について、倫理的な課題も含めて、先行研究をクリティークしたうえで科学的根拠に基づいたケアの開発、看護実践やケアを提供するシステムの在り方について研究指導を行う。	hamanaka@iwate-uhms.ac.jp
	小児	准教授	下野 純平	重症心身障害児や NICU 入院児をもつ親（特に父親）の役割と家族支援に関するテーマについて研究指導を行う。	shimono@iwate-uhms.ac.jp
	精神	教授	岡田 実 (研究科長)	精神科救急・急性期看護、地域移行に伴う多職種連携、精神科臨床全般に求められる危機管理、地域包括ケアにおける精神障害者の処遇、精神科看護実践の諸課題に関する理論と実践について研究指導を行う。	mokada@iwate-uhms.ac.jp
看護管理学領域	看護管理	教授	伊藤 收	医療機関において看護管理を担う立場にある人を対象に、その所属施設の看護管理・教育面での課題を明らかにすることや、改善につながる知を探求することで、所属施設の看護の質向上に資する研究指導を行う。	osamui@iwate-uhms.ac.jp

※は「研究科長 岡田実 mokada@iwate-uhms.ac.jp」までお問合せください。

2) 研究指導教員（連携協力教員）

職位	氏名	連絡先
教授	清水 哲郎 (臨床倫理研究センター長)	shimizu@iwate-uhms.ac.jp
教授	三浦 靖彦	miura@iwate-uhms.ac.jp
准教授	大井 慈郎	ooi@iwate-uhms.ac.jp

14. 出願資格審査について（該当者のみ）

- 1) 10頁「8. 出願資格 7)」に該当する者は、出願前に下記の書類を郵送し、出願資格審査を受け、出願資格認定を受ける必要があります。

提出期間：第一次募集 令和5年10月23日（月）～ 令和5年11月10日（金）※必着
第二次募集 令和6年1月15日（月）～ 令和6年1月26日（金）※必着

- 2) 本学大学院での審査後、結果通知を送付します。一次募集は令和5年11月20日（月）までに、二次募集は令和6年2月5日（月）までに結果の通知が届かない場合には、大学院担当まで問合わせてください。出願資格が認定された者は、15頁の出願手続により出願してください。

提出書類	摘要
出願資格認定審査申請書	本学所定の様式を使用してください。
受験許可書	入学後も勤務しながら修学する方は提出してください。勤務先の署名と捺印が必要です。本学所定の様式を使用してください。
看護師免許証・保健師免許証等の写し	看護師・保健師等の免許を取得している者は、A4 サイズに縮小し提出してください（取得見込者を除く）。
卒業（修了）証明書の写し又は卒業（修了）見込証明書	最終学歴となる出身大学（出身学校）のものを提出してください。
研究発表及び雑誌投稿の実績を証明できる本文の写し	本人筆頭のを提出してください。現在手に入らない場合は、その旨「出願資格認定審査申請書」に明記してください。
講習会等の修了時に発行された修了証書等の写し	特になし。
認定看護師等の認定証の写し	特になし。
結果通知用封筒	返信用封筒（長形3号 23.5cm×12cm）に送付先を記入し、簡易書留料金を含む404円分の切手を貼付してください。

15. 出願手続

1) 出願提出書類

必要書類	摘 要	本学 HP から ダウンロード可	出願資格審査 が不要な者	出願資格審査が 必要な者
入学志願書	・写真貼付をすること	○	○	○
写真票・受験票	・写真票に写真貼付をすること	○	○	○
写真 2 枚	・3 か月以内に撮影した写真で、正面、上半身、無帽、無背景、縦 4 cm×横 3 cmのもの ・裏面に氏名を記入し、入学願書と写真票に貼付すること	—	○	○
研究計画書	・希望する研究指導教員の署名、捺印がされていること	○	○	○
長期履修申請書 (在職証明書)	・職業を有していることを長期履修の申請理由としている者は、在職証明書(本学所定)を添付すること ・希望する研究指導教員の署名、捺印がされていること ・10 頁「長期履修生制度」参照	○ (○)	注 ²	注 ²
受験許可書	・入学後も勤務しながら修学する方は提出してください ・勤務先の署名と捺印が必要です	○	○	— (出願時は不要)
出願資格認定書	・出願資格審査後に、本学大学院から郵送されたもの	—	—	○
卒業(修了)証明書又は卒業(修了)見込証明書 注 ¹	・出身学校所定の様式によるもので、出願前3か月以内に発行し厳封されたもの	—	○	○
成績証明書	・出身大学等の長が作成し厳封されたもの	—	○	○
看護師・保健師免許証等の写し	・A4 サイズに縮小コピーすること(取得見込者を除く)	—	○	○
受験票送付用封筒	・速達分(344 円切手)の切手を貼り志願者の郵便番号、住所、氏名を明記してください	—	○	○
入学検定料の明細	・検定料 30,000 円を払込み、明細票のコピーを同封すること	—	○	○

注¹…証明書等が現在の姓名と異なる場合には、そのことが確認できる戸籍抄本などを提出すること。

注²…長期履修希望者は、提出すること。

2) 出願方法と注意事項

- (1) 出願書類を取り揃え、角2封筒を各自で用意し「大学院受験書類在中」と明記の上、出願期間内に **簡易書留速達**で郵送(締切日必着)するか、直接大学に持参すること。
- (2) 出願書類に不備があるものは受付できないので、提出前に確認すること。
- (3) 受理した提出書類、納入した入学検定料は返還しません。
- (4) 受験票は、入学願書の現住所宛に速達郵便で送付するので、記載事項に誤りが無いか必ず確認すること。願書提出後、一週間を過ぎても届かない場合は、大学院担当まで連絡すること。

3) 入学検定料

30,000円（本学学生が、卒業後直ちに志願する場合は無料）

入学検定料は、郵便局・ゆうちょ銀行に備え付けの青色の「振替払込用紙」を使用し、次の口座まで払込んでください。払込み後、「振替払込請求書兼受領証」のコピーを出願書類の所定の欄に貼付してください。入学志願書を本学の窓口に提出される場合は、現金でもかまいません。

払込先口座番号 02200-3-121434

加入者名 学校法人二戸学園 岩手保健医療大学

通信欄記入事項 2024年度 大学院 入学検定料

4) 書類送付先

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目6番30号 岩手保健医療大学 大学院担当 宛

16. 入学者選抜方法

入学者の選抜は、学力試験、面接試験（口頭試問を含む。）及び提出書類などにより、総合的に判定します。

1) 学力試験

①英語（60分100点）：読解力を問う問題に解答する筆記試験

※辞書持込み可、ただし電子辞書は不可

※社会人特別選抜の場合は、英語試験を課さない

②専門科目（60分100点）：希望する専攻分野の基礎的知識に関する問題に解答する筆記試験

領域	出題分野	備考
基礎・地域連携看護学	基礎看護学・地域看護学・在宅看護学	いずれか ひとつの科目
臨床・応用看護学	老年看護学・母性看護学・小児看護学・精神看護学	
看護管理学	看護管理学	

※試験は、知識・判断力・思考能力を問う試験問題とする。

2) 面接試験（100点）

志望理由及び実践・教育・領域に関する内容についての個別面接（20分程度）

3) 試験日時

第一次募集	令和5年12月9日（土）
第二次募集	令和6年2月17日（土）

	一般選抜入学試験	社会人特別選抜試験
受付	9時00分～9時30分	10時20分～10時50分
受験上の注意	9時30分～9時40分	10時50分～11時00分
英語	9時40分～10時40分	—
専門科目	11時00分～12時00分	
面接 (口頭試問含む)	12時20分～	

17. 試験当日の注意事項

- ・受験者は、受付を済ませ、指定の時間までに受験票を机の上に置いて着席してください。試験開始前に諸注意を説明します。
- ・試験当日に受験票を忘れた場合は、直ちに係員に申し出て指示を受けてください。
- ・試験開始後は30分以内の遅刻に限り受験を認めます。ただし、試験時間の延長は認めません。
- ・携帯電話、スマートフォン等は試験場に入る前にアラームを解除し電源を切ってかばん等にしまってください。試験中にこれらを手に持ったり、身につけたりしていた場合は、不正行為とみなします。
- ・試験中、机の上に置けるものは、受験票、筆記用具、時計（辞書、電卓、端末などの機能がなく音が出ないもの）、目薬、ティッシュペーパー（袋または箱から中身だけを取り出したもの）に限ります。
- ・試験場の場所や交通手段、所要時間等は事前に必ず確認してください。

18. 合格発表

第一次募集	令和5年12月15日（金）13時
第二次募集	令和6年2月26日（月）13時

- 1) 合格者へ合否通知書及び入学手続書類を発表当日付で送付します。
- 2) 合格者の受験番号を本学正面玄関に掲示するとともに、本学ホームページ上での発表も行います。
- 3) 電話による問合せには応じません。

19. 入学手続について

第一次募集	令和5年12月18日（月）～令和5年12月26日（火）必着
第二次募集	令和6年2月28日（水）～令和6年3月5日（火）必着

- 1) 合格者で本学に入学を希望する者は、所定の入学手続を行ってください。
- 2) 詳細は、合格通知書とともに入学手続要領を送付しますので、それに従ってください。
- 3) 入学手続期間内に入学手続を完了しなかった場合は、入学を辞退した者として取り扱いますので注意してください。

20. 学納金等について

1) 修業年限2年の場合

区 分	1 年目		2 年目	
	前期	後期	前期	後期
入学金	250,000 円	—	—	—
授業料	275,000 円	275,000 円	275,000 円	275,000 円
合 計	入学手続時納入金 525,000 円	<u>275,000 円</u>	<u>275,000 円</u>	<u>275,000 円</u>

2) 長期履修生制度（修業年限3年）を活用した場合

区 分	1 年目		2 年目		3 年目	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
入学金	250,000 円	—	—	—	—	—
授業料	184,000 円	184,000 円	183,000 円	183,000 円	183,000 円	183,000 円
合 計	入学手続時納入金 434,000 円	<u>184,000 円</u>	<u>183,000 円</u>	<u>183,000 円</u>	<u>183,000 円</u>	<u>183,000 円</u>

本学卒業生が大学院に入学する場合は、入学金は無料としています。入学後はその他、教科書代、教育後援会費、学生保険費等が別途必要になります。

21. 入学辞退手続について

入学手続きを終えた後に入学を辞退する場合は、事前に電話連絡の上、令和6年3月25日（月）までに本学所定の「入学辞退届」を下記宛てに提出してください（郵送の場合締切日必着）。その場合に限り、入学手続時に納入された学納金等（入学金以外）を返還します。

用紙請求先・提出先

〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目6番30号
岩手保健医療大学 大学院担当
TEL : 019-606-7030

22. その他

- 1) 出願書類等に記載された住所、氏名等の個人情報については、入学試験に関する業務にのみ使用し、第三者に提供することはありません。
- 2) 入学試験時に大規模災害や予期せぬ事態等が発生した場合は、入学者選抜方法を変更することがあります。

試験会場案内図



学校法人二戸学園

岩手保健医療大学

住 所：〒020-0045 岩手県盛岡市盛岡駅西通一丁目6番30号

T E L：019-606-7030

F A X：019-606-7031

メール：gakumu@iwate-uhms.ac.jp

本学HP：http://www.iwate-uhms.ac.jp

